

任意予防接種に公費助成を

国の動向を注視していきたい

中矢 寿子



Q 日本小児科学会推奨の予防接種12種の中で、ロタ・おたふくかぜワクチンは任意接種である。ワクチンの効果について、原則定期接種と差はないが、任意接種は費用負担がある。2種類の接種率を知りたい。

方々が、楽しみに参加している。数多い表彰の中に、70歳以上の表彰があるのか知りたい。また、全体の経費はどのくらいなのか。

A 表彰は33部門全て1位から8位入賞者を表彰している。部門年代別区分は、男性は60歳以上、女性は50歳以上が最上位で、70歳以上の部門は無い。表彰の経費は、協賛企業提供分を除き合計48万292円だった。第13回大会で70歳以上部門の設置予定は無いが、今後協議していく。

Q これら2種のワクチンに対する定期接種化への動きも聞いているが、待っている間に病気になる可能性もある。ワクチン普及は子どもの健康を守り医療費削減につながる。接種率向上への公費助成を考えると。

A ワクチン接種後の副反応等いくつかの課題等について国が検討中である。今後も、国の審議の動向に注視していきたい。



ーシティハーフマラソンについてー
Q 毎年行われるハーフマラソンも今年で12回。老若男女幅広い世代の

旧メディカル・健診センターの跡地活用について

幼稚園の再編を進める中で検討している

田口 英夫



Q 旧メディカルセンター・総合健診センター跡地について、今後どのように活用していくのか。

の受け入れや預かり時間の延長、給食の提供などを行っていく。幡羅、常盤、明戸幼稚園は3園を再編し新たな園を整備していく。まずは深谷市内の市立幼稚園を8園にしていく。

ー深谷市の幼稚園教育についてー
Q ふかやこども園をモデル園として、深谷市独自の教育指針を策定していくとのことだが、どんなものを策定しているのか。

現在、地域の実態を踏まえて各園で教育目標を設定している。必要となる点は今後も研究を進めていく。



道路照明灯のLEDリソース化による、経費削減額は

削減額は年間約2千万円、10年で約2億円となる

清水 健一



Q リース契約は10年と聞いているが、リース契約終了後の定めはあるのか。

を企業経営課に集約し、工事部門を水道工務課と下水道工務課とし、4課9係から3課7係とし、人件費が年間約4千万円削減できた。

ー新市史編纂に着手する時期はー

現在も取組を進めているが、今後も民間活力を活用し、経費削減と業務の効率化に努めていく。

Q 深谷市史は昭和44年に発刊され49年が経過し、豊里村合併による追補版が発刊されてから38年が経過している。1市3町が合併し10年が経過したが、新深谷市史編纂に、いつ着手するのか。



「市史編纂」

ー上下水道事業の経営は大丈夫かー
Q 組織再編による取組み内容と効果は、どうなっているのか。

櫛引の防風林・花園地区の鐘撞堂山の維持管理は

森林環境譲与税の活用を研究していく

富田 勝



Q 櫛引地区の防風林について、県がふるさと緑の景観地に指定しているが維持管理が行き届いていないところが目につく。市の考えは。

また、来年度から森林の保全管理などに充てることができる森林環境譲与税の受け入れが始まることから、県と調整しながら防風林の維持管理と共に研究していく。

Q 奨励金が少額のため緑地保全の継続が困難になってきている。荒川中部土地改良区や緑の王国の業務の一環として、また市独自の基金を創設して支援できないか。

設置の必要性について、調査を行っていききたい。



防風林